

第9期 ■ 事業報告書

2002年7月1日から2003年6月30日まで



GOODWILL
GROUP

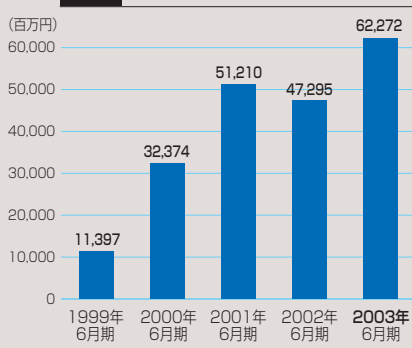


グッドウィル・グループ株式会社

証券コード 4723

売上・利益が過去最高に。

売上高



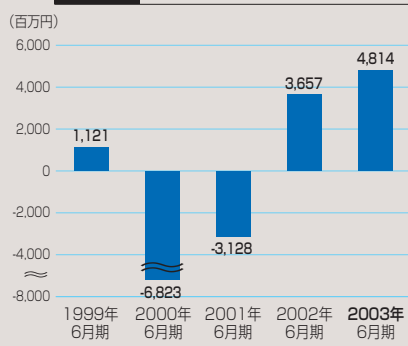
売上高

連結売上高は前期より149億77百万円増加して622億72百万円になりました。(前期比31.6%の増加)

グループ事業の「選択と集中」が一巡したことにより、主力の「軽作業請負事業」の安定した成長と業務領域の質的・量的な拡大と「介護事業」が堅調に推移したことやサービスフィールドの拡充により大幅増収となりました。

両コア事業分野とも過去最高の売上を記録しております。

経常利益

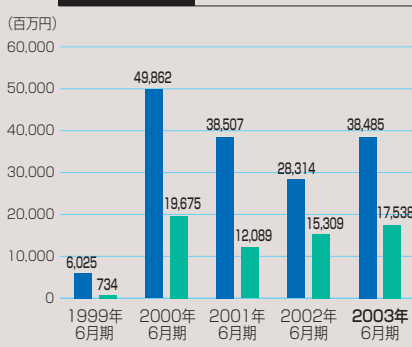


経常利益

連結経常利益は前期より11億56百万円増加して48億14百万円になりました。(前期比31.6%の増加)

アウトソーシング事業の重要性の認知度向上や汎用性の浸透を背景に、グッドウィル・グループ単体の業績は計画を上回りました。介護ビジネス子会社コムスは介護に対するニーズの高まりを背景に売上及び収益幅の拡大も寄与しております。引き続き戦略的投資を行いながらも、増益基調を継続させてまいります。

総資産 (■) 株主資本 (■)



総資産・株主資本

当期の連結総資産は384億85百万円、連結株主資本は175億38百万円になりました。

当社グループが企業価値最大化のために重視しておりますことは、資産及び資本効率の向上です。すなわちROE及びROAの向上につとめております。

総合人材サービスを提供する当社では「人材」こそが最も大切な資産であると認識しております。人材という数値化しにくい資産を大切にしつつ、余剰資産や低稼働資産を極力持たない、効率的な経営の徹底、これが当社の基本方針です。

成長戦略はさらなる発展へ。

通期の事業環境と業績

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社の第9期（2002年7月1日から2003年6月30日まで）が終了いたしましたので、営業の概況などについてご報告いたしますとともにひとことごあいさつを申し上げます。

当期のわが国経済は、米国景気回復頼みという構造に大きな変化は無く、期中全体を通して停滞気味に推移いたしました。それに伴い、企業業績の悪化や設備投資の抑制、リストラの加速による雇用環境の悪化など心理的にもマインドは活性化せず、厳しい状況が続きました。

グッドウィルグループは、このような外部環境の中にもありましても成長著しい二つのコア・ビジネスを軸として事業展開を進めております。

一つ目は、軽作業アウトソーシングと人材サービスを中心とする「人材ビジネス」、そして二つ目は高齢者総合介護サービス（訪問介護・施設介護）を中心とする「介護ビジネス」です。両ビジネスは今期も成長を続けておりますが、今後中長期にわたり大きな成長が見込める有望なマーケットであります。

中長期の見通しと取り組み

高成長マーケットに経営資源を集中させている選択や着眼は、他社の追随を許しません。

マーケットそのものの成長性に、当社の卓越した事業戦略やマネジメントスキルを付加することにより、名実ともに「総合人材サービスのリーディングカンパニー」としてその成長速度を加速させ続けております。

グッドウィルグループ十訓の中で、「スピードは力なり、変化をチャンスと思え」と謳っております。様々に変化する状況下において、全グループ社員がいち早く対応し、また先見し行動することにより、圧倒的な優位性を保てるよう努力を惜しまず、実践しております。

私たちは、株式会社の使命である企業価値の最大化を追求してまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2003年9月

グッドウィル・グループ株式会社
代表取締役会長兼CEO

折口 雅博



グッドウィル・グループ株式会社
代表取締役会長兼CEO

折口 雅博

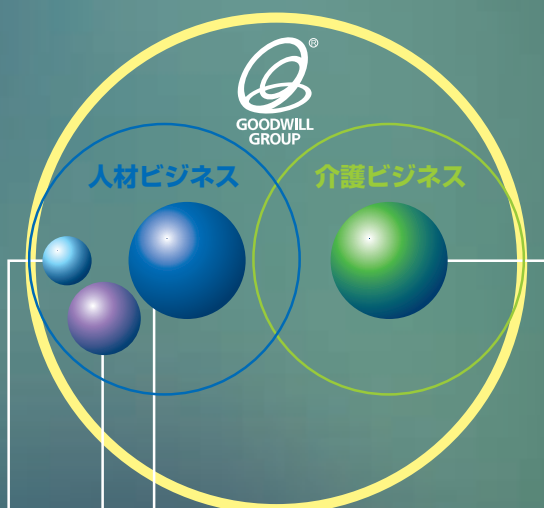
■ 社 是

「弛まぬベンチャースピリット」

■ グッドウィルグループ 十訓

- 一、お客様の立場にたて、究極の満足を与えよ
- 一、夢と志を持ち、常にチャレンジせよ
- 一、困難の先に栄光がある、逆境を乗り越えよ
- 一、物事の本質を見抜け、雑音に動じるな
- 一、原因があるから結果がある、公正に判断せよ
- 一、積極果敢に攻めよ、守りは負けの始まりなり
- 一、スピードは力なり、変化をチャンスと思え
- 一、自信を持って、謙虚さと思いやりを持って
- 一、笑顔と共に明るくあれ
- 一、正しくないことをするな、常に正しい方を選べ

グッドウィルグループは、
人材ビジネスと介護ビジネスの
二つのコアに集中し、
企業活動を行ってまいります。



グッドウィル・グループ株式会社
軽作業を中心に、イベント・販売促進、
一般事務やIT関連まで幅広く人材サービ
スを行っています。

株式会社コムスン
24時間巡回介護モデル事業として、厚労
省から日本で初めて指定された老舗の高
齢者介護の専門会社です。

株式会社グッドウィル・キャリア
EAP（社員カウンセリングプログラム）、
ASP（組織の活性化プログラム）など心
理学をコア技術として、カウンセリング及
び職業紹介、各種コンサルティング、教
育事業を行っています。

株式会社ソア
展示会、見本市における企画制作・運営
管理業務及びドライバー派遣等の専門的
な人材サービスを行っています。

人材ビジネス

- グッドウィル・グループ株式会社
- 株式会社グッドウィル・キャリア
- 株式会社ソア

グッドウィル・グループ株式会社

当期（2002年7月1日から2003年6月30日まで）業績

売上高

売上高は、前期より106億45百万円増加して
363億10百万円になりました。

（前期比41.4%の増加）

経常利益

経常利益は、9億97百万円増加して37億71
百万円になりました。

（前期比35.9%の増加）

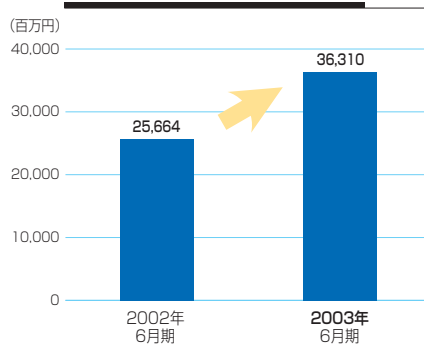
当期純利益

当期純利益は、6億16百万円増加して20億
20百万円になりました。

（前期比43.3%の増加）

「アウトソーシング」に対する汎用性・認知度が
急速に拡大しており、これに対応すべく、サービ
スの迅速性、利便性、請負能力の質的・量的充実
を図りました結果順調に推移しました。

グッドウィル・グループ単体の
売上高推移





事業内容～

グッドウィル・グループのサービスフィールド

- **CAS** / キャスティング :
軽作業全般
- **CON** / コンストラクション :
建築・内装関連の軽作業
- **SP** / セールスプロモーション :
販売促進補助 (サンプリングやデモ販売など)
- **TS** / テクニカルサポート :
PCセットアップやシステム導入作業
- **OS** / オフィスサポート :
事務、コールセンターオペレーター

グッドウィル・グループ サービス別売上高の推移

(百万円)

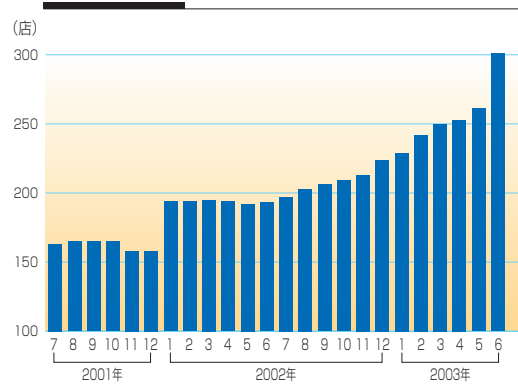
サービス	2002年6月期	2003年6月期
CAS キャスティング	22,638	30,884
CON コンストラクション	883	1,907
SP セールスプロモーション	803	1,564
TS テクニカルサポート	608	771
OS オフィスサポート	226	431
その他	504	751
合計	25,662	36,308

来期の課題と取り組み

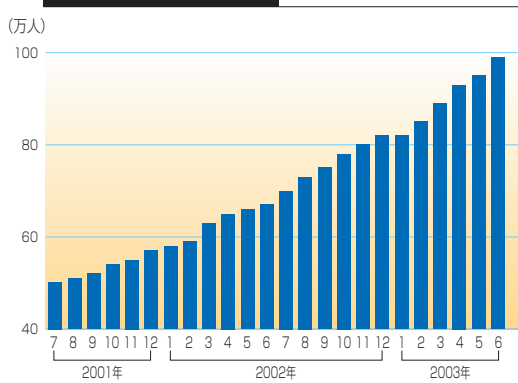
質的・量的にも多様化する傾向のクライアントニーズに対応すべく、また登録スタッフへの利便性も考慮して前期末193支店から当期末301支店まで拡大させましたが、引き続き来期も拠点展開は積極的に行っていきたくと考えております。

面展開にての拡大とともに営業強化による新規顧客開拓ならびに深耕、さらに顧客第一主義による顧客満足度の最大化を目指してまいります。

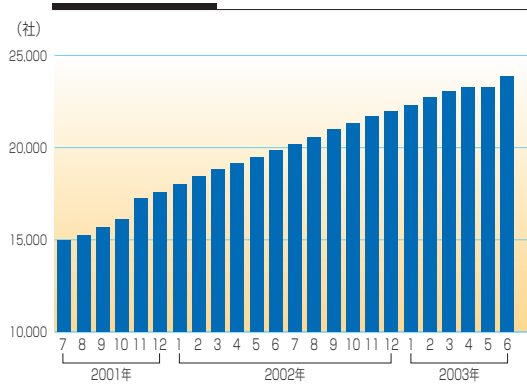
支店数の推移



登録スタッフ数の推移



登録社数の推移



株式会社コムスン

株式会社コムスン

当期 (2002年7月1日から2003年6月30日まで) 業績

売上高

売上高は、前期より81億42百万円増加して231億1百万円になりました。
(前期比54.4%の増加)

経常利益

経常利益は、3億89百万円増加して13億7百万円になりました。
(前期比42.4%の増加)

当期純利益

当期純利益は、6億69百万円増加して12億94百万円になりました。
(前期比107.1%の増加)

成長が続く在宅介護マーケットに対応するため、またスケールメリットをいち早く享受するため、引き続き拠点数の増設、スタッフ、ケアマネージャー及びホームヘルパーの採用・育成・教育に注力いたしております。

これによりサービス提供能力を確保するとともに、サービスの質を向上・担保していきまし

た結果、拠点数も前期末の350支店から当期末510拠点へと160拠点の増加、また顧客数も前期末の21,015名から当期末33,406名へと前期比58.9%増加しており、売上・利益の拡大に寄与しております。

今期、高卒等新卒者を約550名採用いたしましたが、全企業中全国第4位の採用数でした。スタッフ数も前期末8,311名から4,085名増加し、当期末は12,396名(前期比49.1%の増加)となり、雇用の受け皿としても大きく社会貢献しております。この高失業率・就職難の時代に介護ビジネスが新しい産業として着実に認知・浸透されていることを如実に証明しており今後もますますの拡大が見込めます。

事業内容～

コムスンのサービスフィールド

コムスンというブランドイメージを幅広く共有。在宅介護、24時間介護で培ったノウハウをサービスフィールドの拡大に活かしていきます。

●訪問介護サービス

- ・ケアマネジメント
- ・ケアサービス
(身体介護・生活援助)
- ・訪問入浴サービス
- ・訪問歯科サポートサービス
- ・介護タクシーサービス
(2003年3月スタート)
- ・福祉用具販売・レンタル

●施設介護サービス

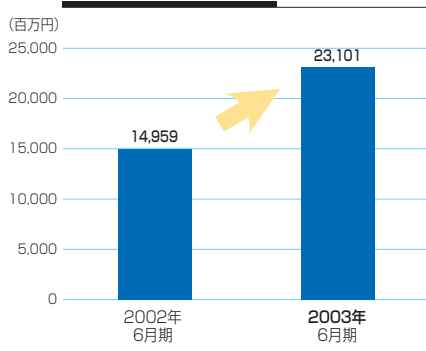
- ・介護付き有料老人ホーム
- ・グループホーム

●ヘルパー養成事業

介護付き有料ホーム
「コムスンホーム西国分寺」



コムスンの売上高推移





来期の課題と取り組み

介護保険の認知が進み、汎用性も十分浸透をはじめた状況において、質的・量的な拡大を最重要課題として取り組むべく、持てる経営資源を最大限活用してまいります。

コムスの事業展開において、ベースとなる訪問介護事業の成長の基盤として来期も引き続き拠点数やスタッフ数を拡大しながら、高まる顧客ニーズを汲むことによるサービスの質的向上やフィールドの拡大等、中長期の利益寄与のため戦略的投資を積極的に行ってまいりたいと考えております。

在宅介護における二本柱として「訪問介護」と「施設介護」の成長速度を早めてまいります。「コムスの誓い」で謳っておりますお客様第一主義に徹することによる顧客満足度の最大化を目指すことが、ひいてはビジネスの拡大の必須条件であると認識し、企業理念として全社員が共有してまいります。

コムスの誓い

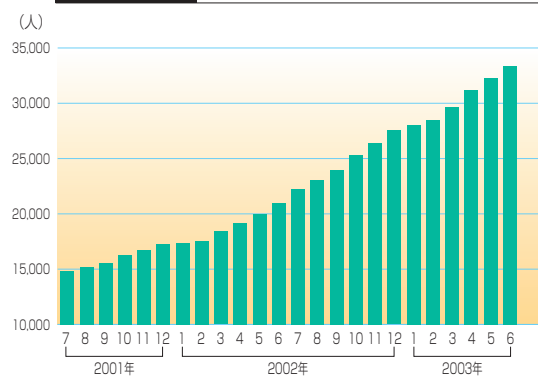
私達は、一人でも多くの高齢者の尊厳と自立を守り、お客様第一主義に徹します。

私達は、明るい笑顔、愛する心、感謝の気持ちを大切にします。

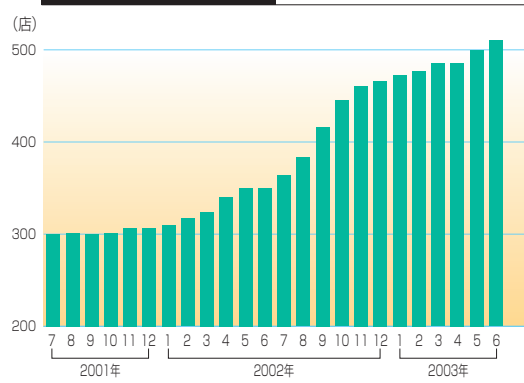
私達は、常にサービスマインドを心がけ、真心を込めて介護を行います。

私達は、責任をもってお客様のプライバシーを守ります。

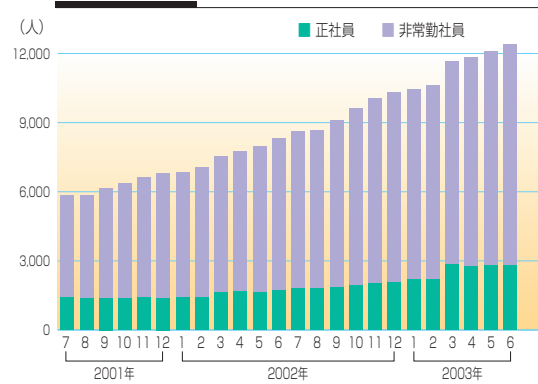
顧客数の推移



ケアセンター数の推移



社員数の推移



連結貸借対照表

（単位：千円、千円未満は切り捨て）

	2001年6月期 2001年6月30日現在	2002年6月期 2002年6月30日現在	2003年6月期 2003年6月30日現在
（資産の部）			
流動資産	25,640,084	16,682,877	23,377,355
固定資産	12,867,239	11,631,319	15,108,368
有形固定資産	3,582,079	1,640,633	1,771,883
無形固定資産	3,713,472	6,544,977	9,145,231
投資その他の資産	5,571,687	3,445,708	4,191,253
繰延資産	175	81	21
資産合計	38,507,499	28,314,278	38,485,745
（負債の部）			
流動負債	22,079,294	12,218,695	19,889,436
固定負債	2,337,165	578,717	613,530
負債合計	24,416,460	12,797,412	20,502,966
（少数株主持分）			
少数株主持分	2,001,545	206,966	443,913
（資本の部）			
資本金	13,632,160	13,674,660	—
資本準備金	15,357,399	16,345,269	—
欠損金	16,980,318	14,692,647	—
其他有価証券評価差額金	7,264	△ 16,853	—
為替換算調整勘定	72,987	—	—
自己株式	—	△ 529	—
資本合計	12,089,493	15,309,899	—
資本金	—	—	13,674,660
資本剰余金	—	—	16,345,269
利益剰余金	—	—	△ 12,497,870
其他有価証券評価差額金	—	—	20,245
自己株式	—	—	△ 3,439
資本合計	—	—	17,538,865
負債、少数株主持分及び資本合計	38,507,499	28,314,278	38,485,745

連結損益計算書

（単位：千円、千円未満は切り捨て）

	2001年6月期 2000年7月1日から 2001年6月30日まで	2002年6月期 2001年7月1日から 2002年6月30日まで	2003年6月期 2002年7月1日から 2003年6月30日まで
売上高	51,210,298	47,295,638	62,272,920
売上原価	36,463,614	31,306,034	41,909,483
売上総利益	14,746,683	15,989,603	20,363,437
販売費及び一般管理費	18,574,317	12,233,259	15,391,604
営業利益（又は損失△）	△ 3,827,633	3,756,344	4,971,833
営業外収益	1,060,516	121,029	110,144
営業外費用	361,706	219,448	267,681
経常利益（又は損失△）	△ 3,128,823	3,657,925	4,814,296
特別利益	141,245	679,331	1,365,995
特別損失	2,887,323	482,308	1,388,244
税金等調整前当期純利益（又は純損失△）	△ 5,874,902	3,854,948	4,792,047
法人税、住民税及び事業税	2,050,000	1,393,000	2,129,920
法人税等調整額	△ 179,763	△ 95,889	△ 157,017
少数株主利益（又は損失△）	△ 335,230	156,600	271,032
当期純利益（又は純損失△）	△ 7,409,908	2,401,236	2,548,112

連結貸借対照表のポイント

流動資産

流動資産は66億94百万円増加して233億77百万円となりました。（前連結会計年度比40.1%増）

これは、主に7月以降の運転資金のために借入を行い、現金及び預金が49億81百万円増加したこと、及び売上債権が27億52百万円増加したことによるものです。

固定資産

固定資産は34億77百万円増加して151億8百万円となりました。（前連結会計年度比29.8%増）

これは、主に子会社である株式会社コムスの株式を取得したこと等により連結調整勘定が26億91百万円増加したこと、及び本社の移転や新規出店に伴い賃貸保証金が12億16百万円増加したことによるものです。

流動負債

流動負債は76億70百万円増加して198億89百万円となりました。（前連結会計年度比62.7%増）

これは、主に7月以降の運転資金のために借入を行い、短期借入金が50億9百万円増加したこと、及び未払費用が15億64百万円、未払法人税等が7億42百万円増加したことによるものです。

固定負債

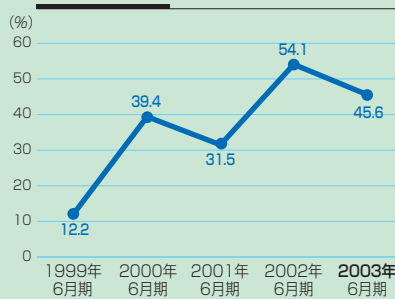
固定負債は34百万円増加して6億13百万円となり、大きな変動はありませんでした。（前連結会計年度比6.0%増）

株主資本

株主資本は22億28百万円増加して175億38百万円となりました。（前連結会計年度比14.5%増）

これは、主に当期純利益を25億48百万円計上したことにより、利益剰余金が増加したことによるものです。

株主資本比率



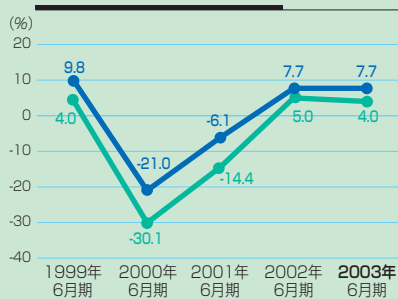
連結損益計算書のポイント

営業利益

営業利益は12億15百万円増加して49億71百万円となりました。（前連結会計年度比32.3%増）

これは、主に請負事業及び介護・医療支援事業の業績が堅調に推移し、それぞれの営業利益が9億30百万円、1億99百万円増加したことによるものです。

売上高経常利益率（←）
売上高当期純利益率（→）

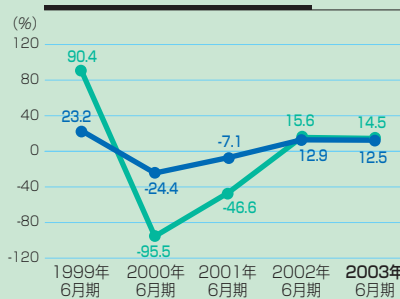


当期純利益

当期純利益は1億46百万円増加して25億48百万円となりました。（前連結会計年度比6.1%増）

これは、主に請負事業及び介護・医療支援事業の業績が堅調に推移したことによるものです。

総資本経常利益率（←）
株主資本当期純利益率（→）



連結剰余金計算書

（単位：千円、千円未満は切り捨て）

	2001年6月期 2000年7月1日から 2001年6月30日まで	2002年6月期 2001年7月1日から 2002年6月30日まで	2003年6月期 2002年7月1日から 2003年6月30日まで
欠損金期首残高	9,313,630	16,980,318	—
欠損金増加額	260,153	230,216	—
欠損金減少額	3,374	116,651	—
当期純利益（又は純損失△）	△ 7,409,908	2,401,236	—
欠損金期末残高	16,980,318	14,692,647	—
(資本剰余金の部)			
資本剰余金期首残高	—	—	16,345,269
資本剰余金期末残高	—	—	16,345,269
(利益剰余金の部)			
利益剰余金期首残高	—	—	△ 14,692,647
利益剰余金増加高	—	—	2,548,112
利益剰余金減少高	—	—	353,335
利益剰余金期末残高	—	—	△ 12,497,870

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円、千円未満は切り捨て）

	2001年6月期 2000年7月1日から 2001年6月30日まで	2002年6月期 2001年7月1日から 2002年6月30日まで	2003年6月期 2002年7月1日から 2003年6月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,303,823	821,092	3,089,106
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,739,309	△ 5,222,157	△ 2,925,442
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 450,714	△ 1,337,335	4,855,852
現金及び現金同等物に係る換算差額	78,729	—	—
現金及び現金同等物の増加額	△ 10,415,117	△ 5,738,399	5,019,516
現金及び現金同等物の期首残高	23,186,669	12,771,552	7,033,153
現金及び現金同等物の期末残高	12,771,552	7,033,153	12,052,670

連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下資金という）は、120億52百万円となり、前期と比べ、50億19百万円増加いたしました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果増加した資金は、30億89百万円（前期は8億21百万円の資金の増加）となりました。

これは、主に請負事業及び介護・医療支援事業の業績が堅調に推移し、税金等調整前当期純利益を47億92百万円計上したことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

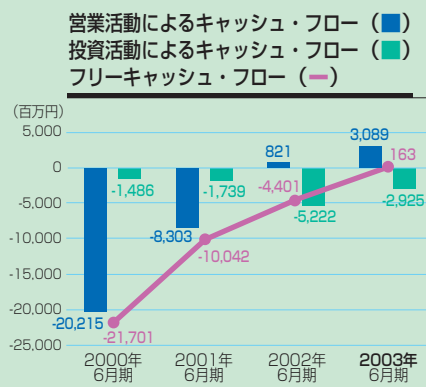
投資活動の結果減少した資金は、29億25百万円（前期は52億22百万円の資金の減少）となりました。

これは、主に投資有価証券及び連結子会社の株式を追加取得したことなどによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果増加した資金は、48億55百万円（前期は13億37百万円の資金の減少）となりました。

これは、主に7月以降の運転資金のために借入を行ったことなどによるものであります。



単体財務諸表（要約版）

貸借対照表

（単位：千円、千円未満は切り捨て）

	2001年6月期 2001年6月30日現在	2002年6月期 2002年6月30日現在	2003年6月期 2003年6月30日現在
(資産の部)			
流動資産	9,811,806	11,490,686	12,951,541
固定資産	29,688,703	31,225,903	33,848,041
有形固定資産	841,410	1,082,200	1,344,934
無形固定資産	241,787	316,559	252,595
投資その他の資産	28,605,505	29,827,143	32,250,511
資産合計	39,500,510	42,716,590	46,799,583
(負債の部)			
流動負債	7,932,279	8,779,614	10,952,446
固定負債	21,291	176,286	390,286
負債合計	7,953,571	8,955,901	11,342,733
(資本の部)			
資本金	13,632,160	13,674,660	—
資本準備金	15,357,399	16,345,269	—
利益準備金	31,606	47,826	—
その他の剰余金	2,525,773	3,705,415	—
その他有価証券評価差額金	—	△ 11,953	—
自己株式	—	△ 529	—
資本合計	31,546,939	33,760,689	—
資本金	—	—	13,674,660
資本剰余金	—	—	16,345,269
利益剰余金	—	—	5,420,113
その他有価証券評価差額金	—	—	20,245
自己株式	—	—	△ 3,439
資本合計	—	—	35,456,849
負債及び資本合計	39,500,510	42,716,590	46,799,583

損益計算書

（単位：千円、千円未満は切り捨て）

	2001年6月期 2000年7月1日から 2001年6月30日まで	2002年6月期 2001年7月1日から 2002年6月30日まで	2003年6月期 2002年7月1日から 2003年6月30日まで
売上高	21,004,224	25,664,531	36,310,431
売上原価	13,533,028	16,745,351	24,139,083
売上総利益	7,471,195	8,919,180	12,171,348
販売費及び一般管理費	4,990,972	6,113,385	8,381,129
営業利益	2,480,223	2,805,794	3,790,219
営業外収益	313,816	120,499	155,028
営業外費用	92,730	152,412	174,105
経常利益	2,701,308	2,773,881	3,771,141
特別利益	187,526	—	1,175,000
特別損失	46,311	179,683	1,225,776
税引前当期純利益	2,842,524	2,594,198	3,720,365
法人税、住民税及び事業税	1,350,000	1,230,000	1,870,000
法人税等調整額	△ 76,379	△ 39,092	△ 169,841
当期純利益	1,568,904	1,403,290	2,020,206
前期繰越利益	1,005,342	2,347,351	3,535,875
中間配当額	44,067	46,191	184,761
中間配当に伴う利益準備金積立額	4,406	—	—
中間配当に伴う利益準備金取崩額	—	—	47,826
当期末処分利益	2,525,773	3,704,450	5,419,148

利益処分計算書

（単位：千円、千円未満は切り捨て）

	2001年6月期 2001年9月27日	2002年6月期 2002年9月26日	2003年6月期 2003年9月10日
当期末処分利益	2,525,773	3,704,450	5,419,148
任意積立金取崩額	—	—	964
利益処分量	178,421	168,574	244,758
利益準備金	16,220	—	—
配当金	132,201	138,574	184,758
役員賞与金	30,000	30,000	60,000
(うち監査役賞与金)	(1,000)	(1,000)	(3,000)
次期繰越利益	2,347,351	3,535,875	5,175,354

(注) 日付は株主総会承認日です。

会社概要

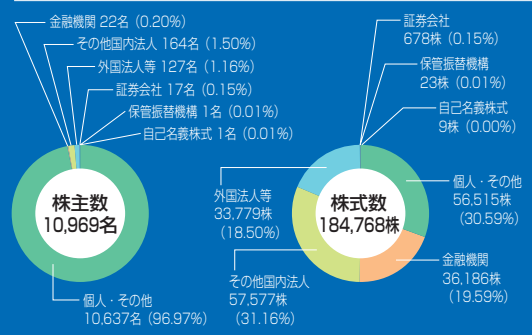
会社名	グッドウィル・グループ株式会社 (The Goodwill Group, Inc.)
所在地	東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー35F
代表者	折口 雅博
設立	1995年2月1日
資本金	136億7,466万円
事業内容	1. 経営コンサルティング 2. 物品の仕分け梱包及び配送業務の請負 3. パーティー、会議、催事の設営及び 各種セレモニーの企画、運営管理の請負 4. 建築現場における清掃、資材搬入、 撤去の請負
従業員数	就業従業員749名 臨時従業員1,025名 計1,774名 (2003年6月30日現在)
役員	代表取締役会長 兼 CEO 折口 雅博 代表取締役社長 兼 COO 川上 真一郎 常務取締役 兼 CFO 金崎 明 常務取締役 神野 彰史 取締役相談役 大西 幸四郎 常勤監査役 美濃部 義 常勤監査役 杉之尾 孝生 常勤監査役 藤野 徹 監査役 石井 成明 監査役 田中 保彦 執行役員 川上 英明 執行役員 花田 充弘 執行役員 中 元 一彰 (2003年9月10日現在)

(注) 藤野徹、石井成明、田中保彦の3氏は、株式会社の監査等に関する商法の特別に関する法律第18条第1項に定める社外監査役であります。

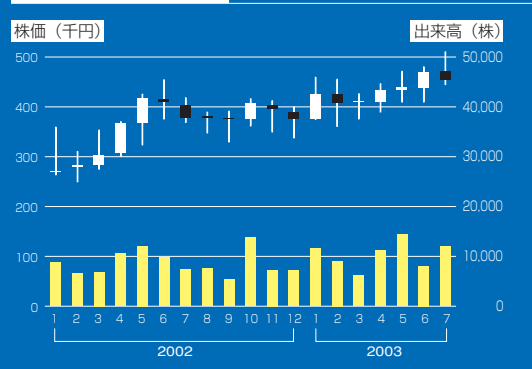
株式の状況 (2003年6月30日現在)

会社が発行する株式の総数	700,000株
発行済株式の総数	184,768株
株主総数	10,969名

所有者別株式分布状況



株価及び出来高の推移



株主メモ

決算期

6月30日

定時株主総会

毎年9月

基準日

毎年6月30日

上記のほか必要がある場合は、あらかじめ公告する一定の日

名義書換代理人

東京都港区芝三丁目33番1号

中央三井信託銀行株式会社

同事務取扱所

東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063

中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

TEL. 03-3323-7111 (代表)

同取次所

中央三井信託銀行株式会社 全国各支店

日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店

(お知らせ) 住所変更、端株買取請求、名義書換請求、
配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は名義書換代理人の
フリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。

公告掲載紙

日本経済新聞

貸借対照表及び損益計算書掲載のホームページアドレス

www.gwg.co.jp/kessan/index.html

お問い合わせ先：広報IR部

〒106-6135 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー35F

Tel: 03-3405-9385 Fax: 03-3405-9448

ホームページ www.gwg.co.jp

IRサイト www.internetir.jp/goodwill

グッドウィル・グループ株式会社